

第23回原子力安全検証委員会 開催結果について

2021年12月2日
 関西電力株式会社

12月1日に、第23回原子力安全検証委員会が開催されましたので、その結果をお知らせします。

今回の委員会では、「美浜発電所3号機事故の再発防止対策の取組状況」、「原子力発電の安全性向上に向けた自主的かつ継続的な取組みのさらなる充実（ロードマップ）」について審議が行われました。

1. 日時 2021年12月1日（水）13時00分～16時00分
 2. 場所 関西電力株式会社 原子力事業本部（福井県美浜町）
 関西電力株式会社 東京支社（千代田区内幸町）
 ※ビデオ会議システムにより開催

3. メンバー

委員長	【社外】	わたなべ かずひろ 渡邊 一弘	(弁護士)
副委員長	【社外】	やまぐち あきら 山口 彰	(東京大学教授)
委員	【社外】	あらかき たかはる 荒木 孝治	(関西大学教授)
委員	【社外】	えんどう のりこ 遠藤 典子	(慶應義塾大学特任教授)
委員	【社外】	えんどう ふみお 遠藤 富美夫	(元福井新聞社編集局長)
委員	【社外】	おざわ まもる 小澤 守	(関西大学名誉教授)
委員	関西電力送配電 株式会社 取締役社長	どい よしひろ 土井 義宏	
委員	取締役 代表執行役 副社長	みその とよかず 彌園 豊一	

以上

【添付資料】

- ・第23回原子力安全検証委員会 議事速報

(以下、発表済み)

- ① [「原子力発電の安全性向上に向けた自主的かつ継続的な取組みのさらなる充実（ロードマップ）」の2021年度上期の進捗状況および2021年度下期の計画について【概要版】](#)
- ② [2021年度上期美浜発電所3号機事故の再発防止対策の取組状況について](#)

関連するサイト・コンテンツ

- ▶ [第23回 原子力安全検証委員会](#)

第23回原子力安全検証委員会 議事速報

1. 「原子力発電の安全性向上に向けた自主的かつ継続的な取組みのさらなる充実（ロードマップ）」の取組状況および監査結果

「原子力発電の安全性向上に向けた自主的かつ継続的な取組みのさらなる充実（ロードマップ）」の取組状況および監査結果について報告し、審議。主な意見は以下のとおり。

- 美浜3号機の再稼動が安全に実現されたことに敬意を表したい。その際、発電所OBが集中的な安全確認に参加して対応したとのことだが、原子力の施設は40年、60年と長期間にわたって使われるものであり、過去の経験・知見を発電所OBを通して活かしていることは、大変良いこと。
(山口副委員長)
- 今回の報告書でも美浜3号機の再稼動や新型コロナウイルス影響の記載で一部対応いただいているところであるが、報告書作成に際し、お願いしたいことは、各種取組みにおいて、実施した結果がどうであったか、安全に影響がなかったかをしっかりと伝えていくことが重要であり、これからも留意いただきたい。(山口副委員長)
- 監査報告において、音声ガイド付きeラーニングの作成を良好事例として取り上げていた。ダイバーシティは、今後、ますます社会で求められるものであり、視覚に障害のある方の声をきちんと反映し環境整備したこと、また良好事例として監査で取り上げたことは、地道ながら非常に良いこと。今後も、このような取組みを継続してほしい。(山口副委員長)
- 10年間停止していた美浜3号機を再稼動させた際に出た、技術的な課題や技術伝承の課題を記録として残して欲しい。米国では60年超運転も行われており、美浜3号機の再稼動に係る技術的な記録は、将来に向けて役立つデータベースとなり得る。(小澤委員)
- 世間では、新型コロナウイルスの流行によりWEB会議が主流となっているが、顔を合わせてコミュニケーションを図ることが、改めて大切と実感している。大学では、新入生がこの1年間学校に行っていないということや、会社員でも社員同士であまり顔を合わせないということもあると

聞く。これにより、コミュニケーションギャップが生じないかと危惧している。是非、意思疎通を確実に実施してもらいたい。(小澤委員)

○この報告書の目的は、さらに安全を高めていくこと、加えて、ステークホルダーと関西電力との情報共有を図ること。もう少し幅広い層に情報が伝わるようにすべきであり、専門用語、英語略称等も含め、分かりにくいことを分かり易く説明する技量・スキルをさらに磨いていく必要がある。(遠藤富美夫委員)

○40年超運転プラントを安全性確保に尽力のうえ再稼動したことは、原子力業界や原子力政策全体において非常に重要なこと。報告書では、ステークホルダーの関心事に対応したと記載されているが、対応結果だけでなく、ステークホルダーが「通常プラントの再稼動と異なり、何を不安に思い、何に関心を持っていたか」を情報として集積し、共有することが重要。(遠藤典子委員)

○報告書を誰に向けて書いているのかについて改めて議論する必要がある。その対象が一般の方なのか、それとも専門家なのかによって、読み手を意識した資料作りを心掛けて欲しい。(荒木委員)

○40年超運転について議論されているが、そもそも40年ということに技術的に大きな意味はない。全く設備更新せずに40年超運転を実施しているという誤解を解消し、「40年超運転プラントは古い」という見方が正しくないと伝わるよう説明していく必要がある。(小澤委員)

○報告書の伝え方が本当にこれで最善なのかについては議論の余地がある。各種取組みの結果を伝えることが大切で、それはできているように感じるが、全般的に読み手の安心に繋がる報告書になっているかについては、まだ改善の余地がある。(山口副委員長)

○RCPのシャットダウンシールについては、一般の方には非常に分かりづらい。例えば、規制基準ではここまで求められており、さらに安全になるように自主的に取り組んでいるということを、一般の方にも伝わるような資料にすることが必要。(渡邊委員長)

2. 美浜発電所3号機事故の再発防止対策の取組状況

美浜発電所3号機事故の再発防止対策の取組状況について報告し、審議。
主な意見は以下のとおり。

- 大飯3号機の循環水管ベント弁は狭隘な場所にあったため視認しづらかったとのことだが、この反省をデータベース化するなどして、将来に活かしてほしい。(小澤委員)
- 美浜3号機再稼動時の総点検、集中的な安全確認の点検結果において、気づき事項への処置を適切に実施したとあるが、大切なのは、このようなことが発生しないように再発防止に取り組むこと。(荒木委員)
- 美浜3号機事故から年月が経過するとともにロードマップに掲げる安全の5つの柱が定着してきている。(山口副委員長)
- 美浜3号機事故の再発防止対策は一定の定着が見られることから、個別各論の議論にとどまることなく、会社全体としてどのような効果があり、どのような文化が定着しているのか、ありたい姿に対してどのレベルまで到達しているのか、ギャップをどのように改善するかを、より広義にとらえて議論していく段階に来たのではないか。(山口副委員長)
- 発生したトラブル等への個別の対策については、かなり細かく対応・報告しているが、より広義の議論をすることが必要。また、発生した問題についてもう少し議論すべき点を絞ったほうがよい。
(渡邊委員長)
- 大切なことは、安全文化、安全性についての考え方に関する議論。すでに実施されている原子力事業本部長と現場第一線職場との対話のようにフリーディスカッションできる場もあった方がよいかも知れない。
(小澤委員)

以 上